

## 持続可能な米づくりを目指して 島根米新品種‘つきあかり’を推進中！

島根県では「持続可能な米づくり」の確立に向けて島根米新品種‘つきあかり’の作付拡大を推進しています。栽培マニュアルを作成し、多収低コスト栽培の実現を図っています。

島根県では米価の下落や生産資材の高騰に対応した「持続可能な米づくり」の確立に向けて、多収穫品種の導入による単位収量当たりの生産コスト低減を図っています。‘つきあかり’は農研機構が育成した極早生の主食用多収品種で食味が良いため、近年実需者からの評価が高まっています。令和3年度に「島根県農産物種子等生産品種」※に決定され、現在‘ハナエチゼン’からの作付転換を推進しています。

※「島根県農産物種子等生産品種」とは、島根県内で政策的に生産を推進する品種。

‘つきあかり’は‘ハナエチゼン’に比べて、成熟期が4日遅く、穂数は少なく、1穂粒数が多い偏穂重型の草型で、13%程度多収です（図1、表1）。食味評価も良好で、現在全国的に普及が進んでいます。当センターでは、目標収量630kg/10aが安定して達成できるように栽培方法の確立を進めており、生育目安や栽培暦を記載した栽培マニュアルを作成し、「持続可能な米づくり」のための多収低コスト栽培の実現を図っています。



左:つきあかり 右:ハナエチゼン  
図1 草型の比較

表1 ‘つきあかり’と‘ハナエチゼン’の生育、粒重、収量の違い

品種名	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	1穂粒数 (粒/穂)	草型	千粒重 (g)	収量 (kg/10a)	比較比率 (%)
つきあかり	8.17	78.1	370	98	偏穂重型	23.9	674	113
ハナエチゼン	8.13	76.5	502	69	偏穂数型	23.4	599	100

注) 4月下旬移植における令和元~5年の品種比較試験における成績の平均値。  
千粒重及び収量は粒厚1.9mm以上の水分15%換算値。

栽培マニュアル URL

<https://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/gijutsu/index.html>

問い合わせ先：栽培研究部作物科（担当:川岡 達也）

TEL 0853-22-6946

E\_mail:nougi@pref.shimane.lg.jp